



MacBook Pro 13" Unibody Mid 2012ハードドライブケーブルの交換

MacBook Pro 13" Unibody Mid 2012ハードドライブケーブルの交換をします。iFixitで修理に必要なパーツ、ツール、修理用ガイドが全て揃います。

作成者: Andrew Optimus Goldheart



はじめに

このガイドを使って壊れたハードドライブケーブルを交換できます。ハードドライブはスリープLEDとIRセンサーを含みます。



ツール:

- プラススクリュードライバー(#00) (1)
- スパッジャー (1)



部品:

- MacBook Pro 13" Unibody (Mid 2012) Hard Drive Cable (1)

手順 1 — 下部ケース



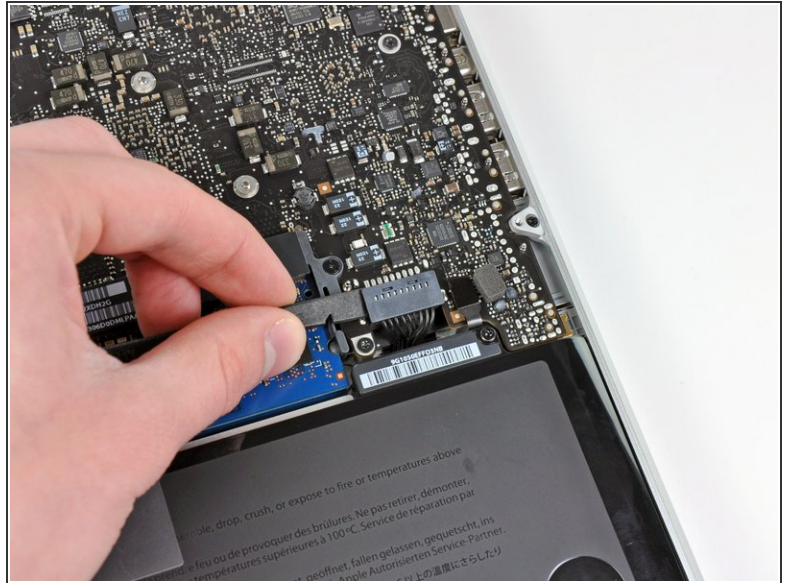
- 次のネジを10本外します。
 - 14.4 mm #00 プラスネジ—3本
 - 3.5 mm #00 プラスネジ—3本
 - 3.5 mm #00 肩付き プラスネジ—4本
- 小さなネジを交換する際は、ケースのわずかに湾曲した部分に対し、垂直にネジを揃えてください。

手順 2



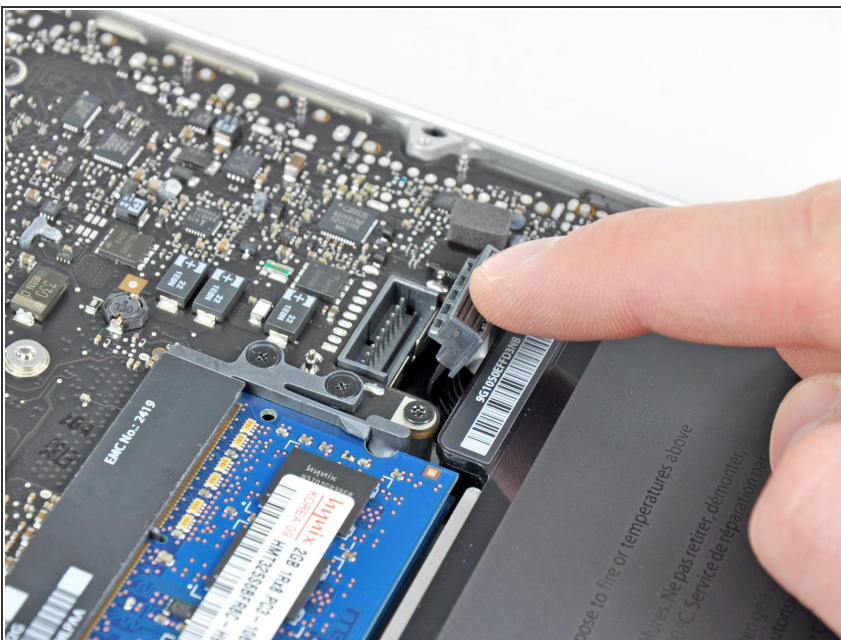
- 排気口（液晶ヒンジ部）付近より、底ケースを指で開けます。
- 底ケースを取り外します。

手順 3 — バッテリーの接続



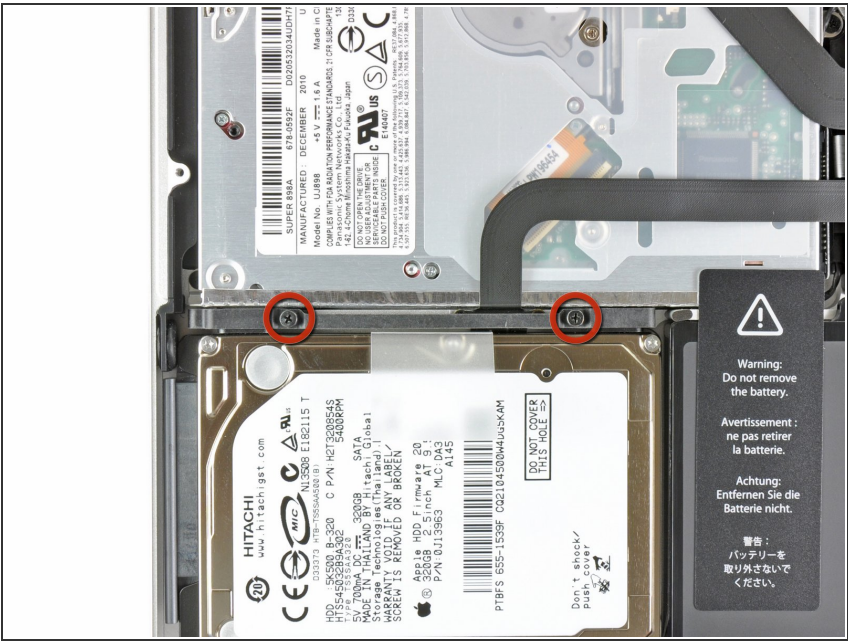
- スパジャの先端を使って、バッテリーコネクタをロジックボードのソケットから上向きに引き上げます。
- ❗ ソケットからバッテリーコネクタを外す際に、両側の短いサイドから上向きに引き上げると作業がしやすいです。コネクタの角に気をつけてください。簡単に壊れてしまいます。

手順 4



- バッテリーケーブルをロジックボード上のソケットから外して、わずかに折り曲げておきます。そうすると、作業中にアクシデントで接続することがありません。

手順 5 — ハードドライブ



- 上部ケースに留められたハードドライブブラケットから2本のプラスネジを外します。
- ① これらのネジはハードドライブブラケットに付けたままにしておきます。

手順 6



- ハードドライブブラケットを取り出します。
- ① ハードドライブブラケットはしっかりと上部ケースに対して固定されています。

手順 7



- 添付のプルタブを使って、上部ケースからハードドライブを持ち上げます。

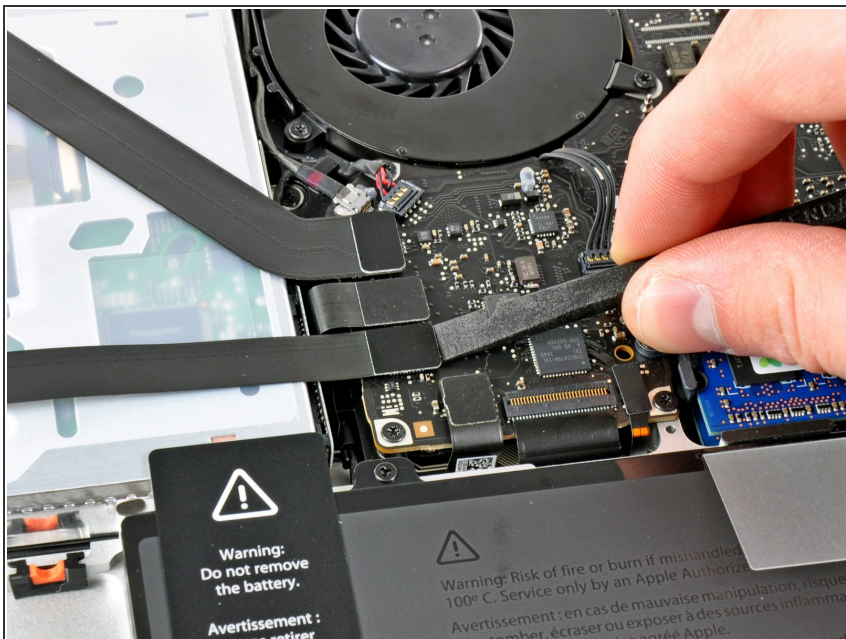
⚠ まだ、ハードドライブを完全に取り外さないでください。ハードドライブケーブルが繋がったままです。

手順 8



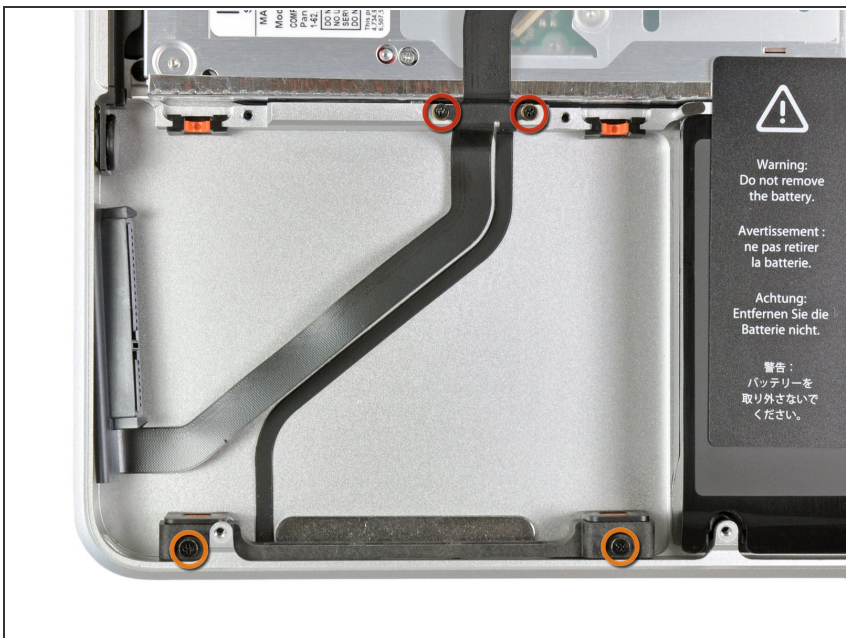
- ハードドライブ本体からハードドライブケーブルを引き離します。
- ハードドライブを取り出します。

手順 9 — ハードドライブケーブル



- スパッジャーの平面側の先端を使って、ハードドライブケーブルコネクタをロジックボード上のソケットから持ち上げます。

手順 10



- 次の4本のネジを外します。
 - 3 mm プラスネジ—2本
 - 9.7 mm プラスネジ—2本

手順 11



- 上部ケースに接着剤で留められている薄いIRセンサー/スリープ時のLEDリボンケーブルを丁寧に剥がします。

手順 12



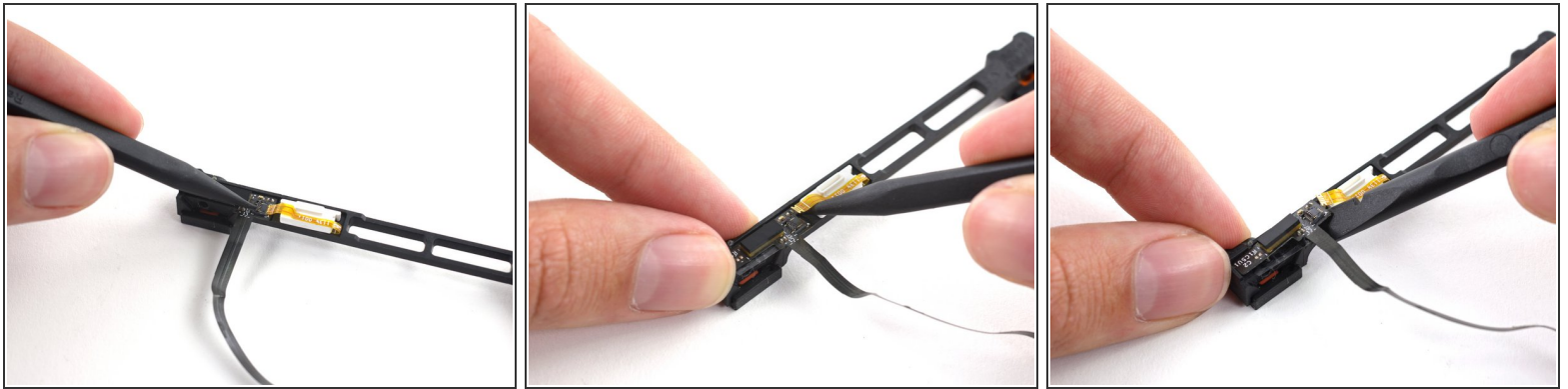
- IRセンサー/スリープ時のLEDを含むハードドライブブラケットを上部ケースの端から引っ張り外します。

手順 13



- ハードドライブケーブルを取り出します。
- ★ 交換用パーツには幾つかの接着剤フォーム製バンパーが付いているかもしれません。これらはブラケットとハードドライブ両方がきちんと装着するために付けられています。必要に応じて使用してください。

手順 14



- ❗ 交換用パーツには正面（センサー）ブラケットが付いている、もしくは付いていないかもそれません。もし付いていない場合は、新しいケーブルにこのブラケットを移してください。
- スパッジャーの先端を使って、ハードドライブケーブル上のZIFコネクタ（一番目の画像の左側）の「レバー」を裏返します。コネクタは取り外しません。次のインストラクションへ進んでください。
 - ZIFコネクタ（2番目の画像の右側に向けて）黄色のセンサーブラケットケーブルをZIFコネクタからゆっくりと引っ張ります。
 - スパッジャーの平面側の先端を使って、センサーブラケットから接着剤で留められたハードドライブケーブルを持ち上げます。
- ★ 新しいハードドライブケーブルから接着剤シールを剥がして、センサーブラケット上に貼り付けます。そしてセンサーブラケットケーブルに接続してください。
- ⚠ 修理を行う多くの人たちは、太い方のケーブルの両側を絶縁テープでカバーします。ケーブルはアルミ製ケース内部で擦れてしまうとショートの原因となったり、接続に支障が出ることがあるためです。

デバイスを再組み立てする際は、これらのインストラクションを逆の順番に従って作業を進めてください。